

2025年度 こどもエコクラブ

メンバーアンケート 結果報告書



こどもエコクラブ全国事務局



メンバーアンケート調査のあらまし

こどもエコクラブのメンバーの状況及び活動の実態を把握し、こどもエコクラブが持続可能な社会づくりの担い手育成に対してどのように貢献しているか、またどのような将来展望に寄与しているかを明らかにします。調査結果を関係者と共有するとともに、今後の事業展開の参考としていきます。

【実施概要】

1. 対象

①2025年度登録クラブのうち、メンバーに協力いただけたクラブ：15クラブ

②こどもエコクラブ全国フェス2026参加クラブ：26クラブ

※「活発な活動をしているクラブのメンバー」が中心の調査と言えます

合計 41クラブ

2. 実施期間：2026年3月21日～4月27日

3. 実施方法

サポーターを通してメンバーから回答（フォーム回答、郵送による返送）

4. 有効回答数

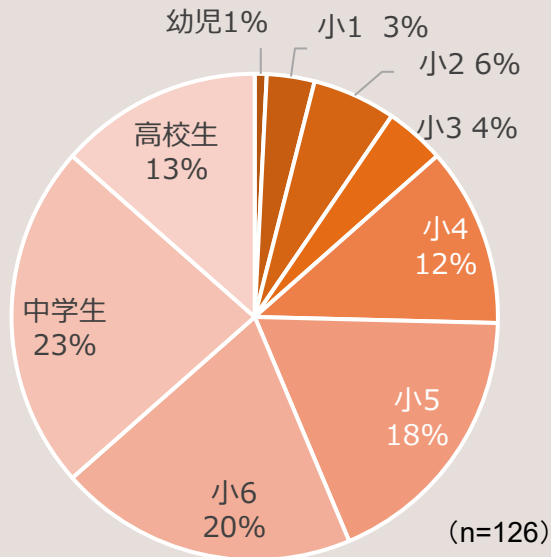
① 15クラブ・ 51名

② 26クラブ・ 75名

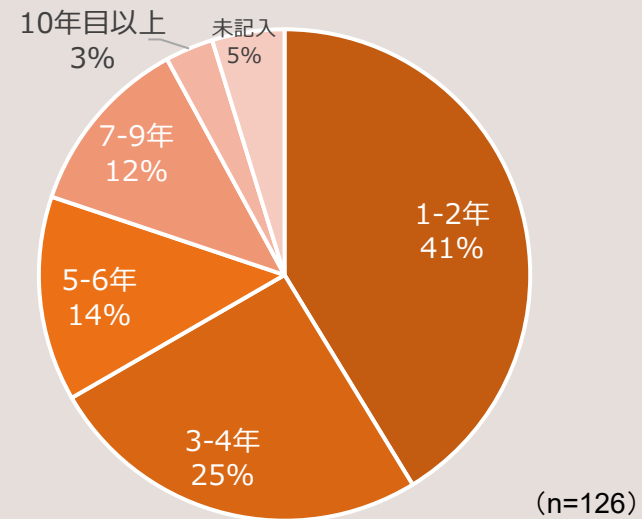
合計 41クラブ・ 126名

多様な年代のメンバー（子どもたち）から回答をいただきました

◆メンバー学年

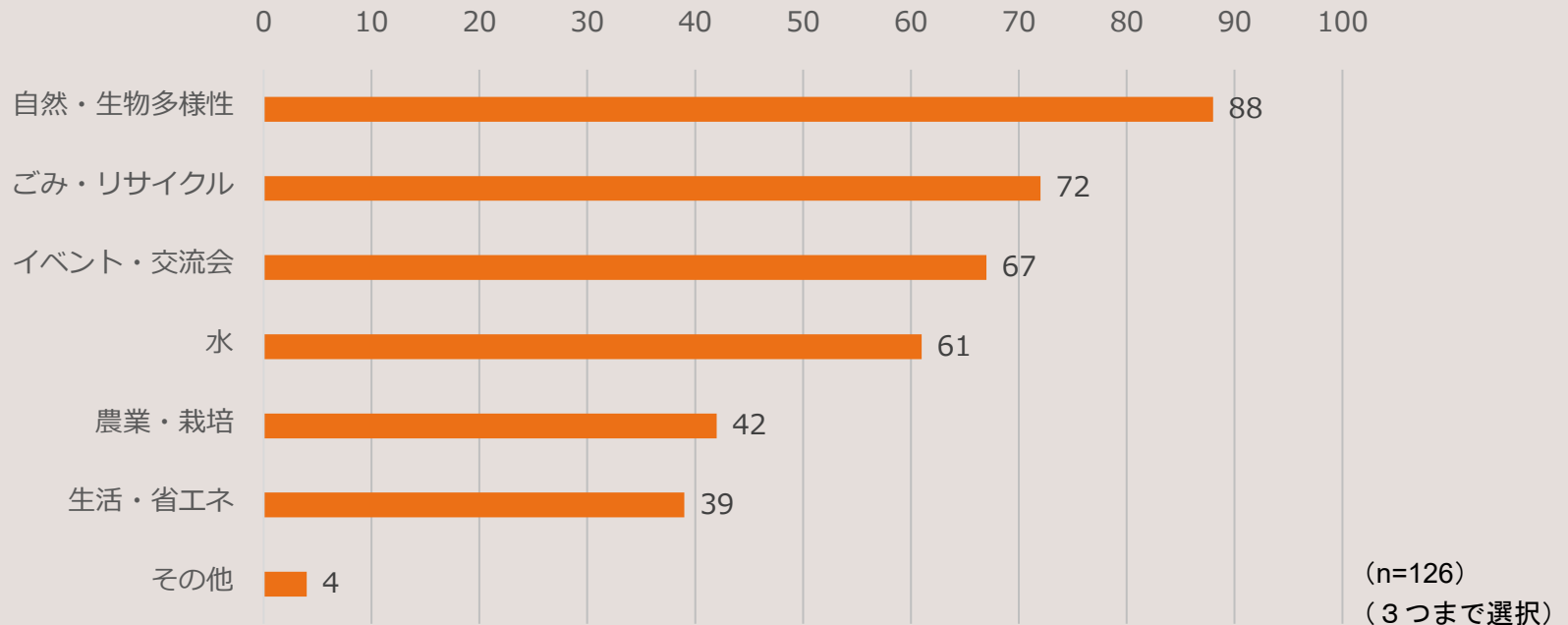


◆クラブへの参加年数



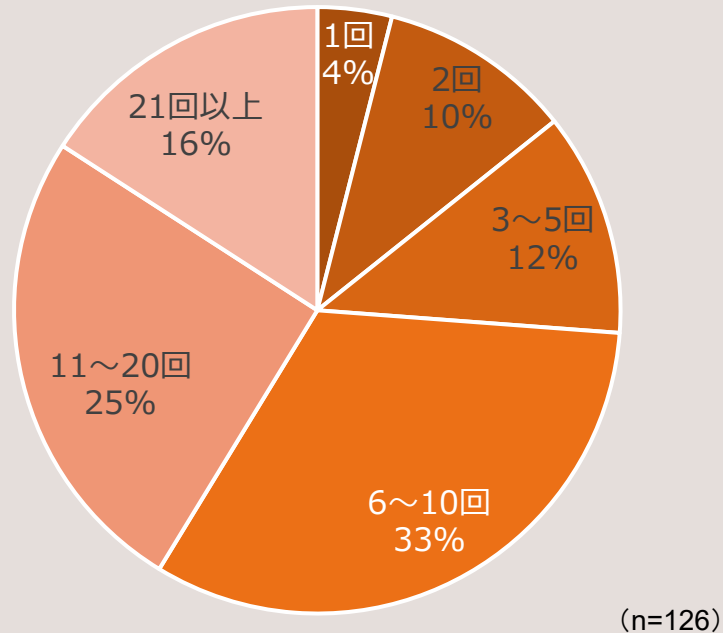
- 回答者の学年は小学校高学年が中心で、小4～6でおよそ全体の半数でした。中学生は23%でした。
- クラブへの参加年数は1～2年が最も多く、6年以下のメンバーが8割でした。
- 一方で5～9年続けて参加しているメンバーも約26%おり、中高生になっても活動を続けているメンバーも一定数いることがわかります。

多様な内容・テーマで活動しています



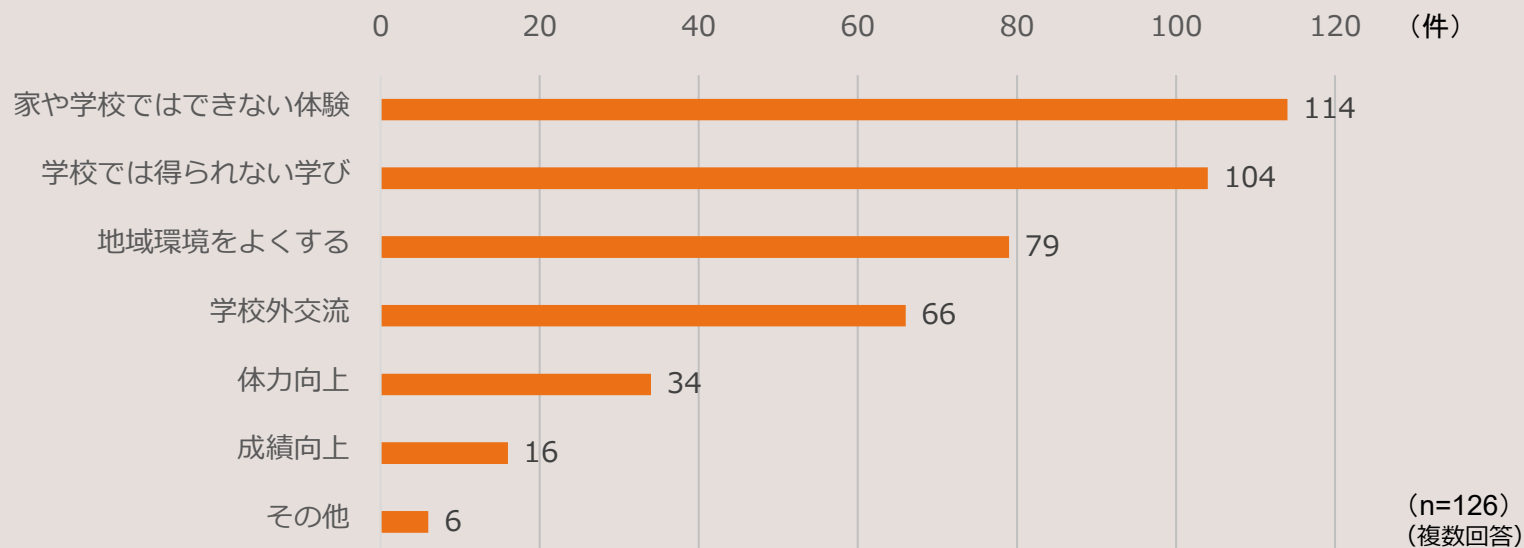
- **自然・生物多様性が一番多く、7割弱のメンバーが取り組んでいました。**この分野は3年連続で取り組むクラブが一番多く、子どもの関心が特に高いことがわかります。
- ごみ・リサイクルが続き、イベント・交流会と答えたメンバーも多くいました。
- その他としては、エコ俳句、エコカルタ、豆まきといった活動が挙げられています。

継続した活動で子どもの成長を促しています



- 上の図は、1年間にメンバーが行った活動の回数を表しています。
- 6~10回が最多で33%となりました。
- 8割を超えるクラブが3回／年以上活動していることがわかりました。
- **繰り返し活動することにより子どもたちの成長を促すこどもエコクラブのコンセプトが浸透していることがうかがえます**

家や学校では得られない体験・学びにつながります



- 上の図は、こどもエコクラブに参加してよかったことを聞いた結果です。
- 全体の約90%のメンバーが「家や学校ではできない体験ができた」と回答し、約82%のメンバーが「学校では習わないことを知ることができた」と回答しました。
- その他「普段からゴミのポイ捨てが気になるようになった」「大人とも関係が深まった」「自分にできることを考えれるようになった」「週末が楽しみになった」「みどりをふやすことができた」といった具体的な回答がありました。

特に印象に残っている活動内容（自由回答）

- **自然・生物多様性に関する活動【31件】**

水生生物調査・保全活動（ホタルやカエルの保全、釣り、調査など）、虫とり、登山、植樹、ガイドウォーク、ツリーイング等。水生生物調査で、同じ生き物でも別の川では大きさなどが違うことが印象に残った。

- **イベント・交流会に関する活動【24件】**

全国フェスティバルでの発表・交流、壁新聞の作成、大阪・関西万博での発表・イベント参加・出展、科学館での実験ショー公演、水辺交流会、地域フェスティバル等。

- **ごみ・リサイクルに関する活動【19件】**

ごみ拾いイベント参加、海岸清掃、リサイクルプログラム参加等。イベント参加や海岸清掃を通してごみの多さや種類、意外なゴミに驚いた。分別についてわかり、リサイクルにはげもうと思った。

- **農業・栽培に関する活動【14件】**

田植えや野菜の栽培、畑づくり、収穫等。

- **水に関する活動【10件】**

川や田んぼの水質調査、酸性雨調査等

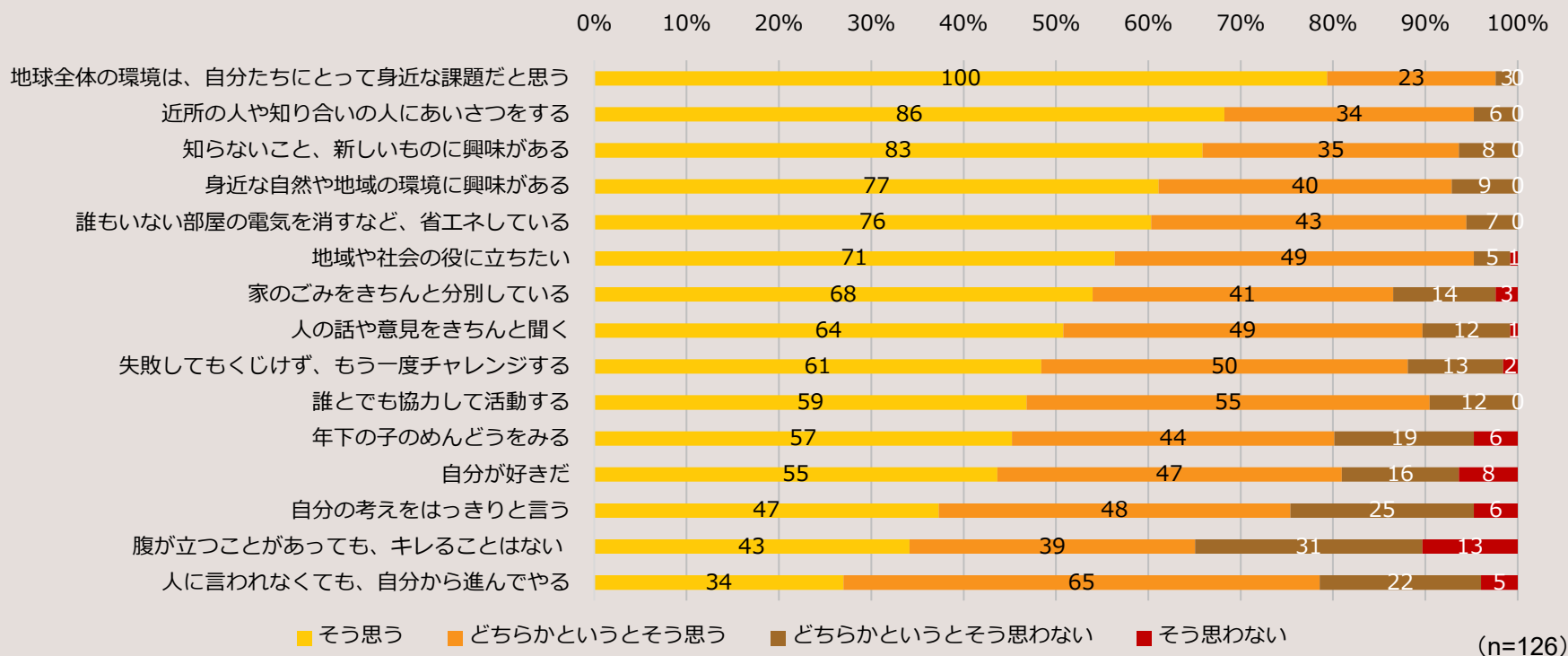
- **生活・省エネに関する活動【2件】**

自然災害体験、棚田のあかり

- **その他の活動【23件】**

地産地消クッキング、SDGs学習会、星空観察、味噌づくり、コンクール審査等。

活動を通して積極性が育まれ、環境配慮の行動変容につながっています



- 上の図は、各項目について自分にどのくらいあてはまるかを聞いたものです。
- 4段階評価の最高評価である「そう思う」の件数としては「**地球全体の環境は自分たちにとって身近な課題だと思う**」「**近所の人や知り合いの人にあいさつをする**」「**知らないこと、新しいものに興味がある**」「**身近な自然や地域の環境に興味がある**」が多い傾向でした。
- 昨年度に比べ、「地域や社会の役に立ちたい」や「誰もいない部屋の電気を消すなど、省エネしている」の「そう思う」「どちらかというと思う」の件数が10%ほど高くなりました。「家のごみをきちんと分別している」なども含めて環境配慮の行動変容につながり、日常的に行動にうつすことが習慣づいていることがわかります。

未来への希望を持つ前向きな姿勢につながります

ジャンル	職業	回答数
芸術関係	イラストレーター（3）、俳優・ミュージカル俳優（2）、声優・声を使う職業、歌手・シンガーソングライター、作家、音楽関係、ラジオDJ、落語家、ギタリスト、カメラマン、デザイナー	15
学者（科学者）	研究者（6）、科学者（4）、博士、開発者	12
教師・リーダー系	保育士・幼稚園共有（6）、学校の先生（3）、茶道の先生	10
生物関係	水族館や動物園等のスタッフ（3）、生き物に関わる仕事（3）、獣医（2）、虫関係	9
食関係	料理人（2）、パティシエ（2）、栄養士（2）、パン屋、カフェ	8
医療関係	医師（5）、看護師（2）	6
スポーツ関係	サッカー選手（3）、野球選手、水泳選手、バレー選手	6
農業・水産関係	農家・農業関係（5）	5
公務関係	公務員（2）、警察官、航空自衛隊	4
環境関係	環境保全、環境に関する仕事、環境をよくする	3
美容関係	美容師、ヘアメイクアップアーティスト・化粧品関係	2
その他	パイロット、客室乗務員、運転士、プログラマー、コンシェルジュ、英語を使う仕事、本が読める仕事、人とかかわりを重要とする仕事、おひめさま、クラブの経験を活かせる仕事、人の役に立つ仕事等	13

（n=126）

- 上の図は、将来なりたいものやつきたい職業について自由回答で聞いたものです。
- 一番多かったものは、芸術関係に関わる仕事が15件でした。次いで研究者や科学者など学者関係が12件、教師・リーダー系が10件、生き物に関わる仕事が9件となりました。
- 生物や環境に関する研究者や生き物に関わる仕事や環境保全に関わる仕事との回答も多くありました。またクラブで学んだことを活かせる職業を志しているメンバーもいました。
- 学校保育園の教員、医師や看護師などの医療関係、警察官といった「人の役に立つ仕事」を志すメンバーも多く、「みんなの役に立つ仕事」の回答もありました。
- 考え中、まだ決めていない、特にない、未記入の合計は33人、全体の約26%でした。

未来への希望を持つ前向きな姿勢につながります <参考情報>

今回調査した「活発な活動をしているクラブのメンバー」は、7割を超える子が何らかの「将来の夢」を持っているという結果がでました。

同意するとの回答割合が最も高い項目について、イギリスでは「私の人生には実現したいこと、実現すべきことや達成したい目標がある」となったが、他の国では「私は勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある」となった。日本では「私は日々の生活で不安やゆううつを感じる」以外の項目において、他国よりも同意する割合は低い。

質問9：あなた自身について、以下の項目に同意しますか。（単一回答、各国n=1,000）

※「同意」+「どちらかといえば同意」の回答率を、日本の高い順に掲載

（単位：％）	日本	アメリカ	イギリス	中国	韓国	インド
わたしは勉強、仕事、趣味など、何か夢中になれることがある	71.3	82.2	82.8	77.6	79.4	86.3
わたしはわたしが他人からどのような評価を受けているか気になる	70.2	74.5	77.6	70.5	79.0	72.4
わたしは目標を立て、何かを達成した経験がある	68.9	78.8	81.2	74.1	78.3	83.8
わたしの人生には実現したいこと、実現すべきことや達成したい目標がある	68.4	81.7	86.2	76.3	76.9	85.3
わたしは日々の生活で不安やゆううつを感じる	66.6	67.4	65.0	58.1	66.8	66.6
わたしは日々の生活が楽しい	63.7	70.3	78.6	69.5	70.3	76.5
わたしは将来の夢を持っている	62.4	80.2	83.1	74.0	71.6	86.3
わたしは人に誇れる個性がある	58.6	76.5	82.6	70.1	64.9	83.7
わたしは他人から必要とされている	57.2	70.6	72.6	72.9	69.3	71.9
わたしは困難があっても前向きに回復できと思う	56.8	77.0	76.3	71.8	75.4	81.4

出典：日本財団・18歳意識調査 第78回テーマ「国や社会に対する意識（6カ国調査）」

一方で、上記の図の通り、日本財団が2026年に実施した18歳意識調査によると、「**将来の夢を持っている**」17～19歳は約6割という結果があり、今回のアンケート結果と比較するとこどもエコクラブの結果の方が高いことがわかります。こどもエコクラブの活動を通して自身の将来に夢を持ち、未来への希望を持つ前向きな姿勢が生まれている可能性があると考えられます。

まとめ・謝辞

こどもエコクラブのメンバーは、仲間との体験活動・多様な学びを通して、**環境問題を身近にとらえることだけでなく、コミュニケーション能力や知的好奇心も向上させている**と考えられます。電気を消す・ごみの分別など実際に行動の変化を起こしていることから、環境問題を「他人事」でなく「自分事」としてとらえる意識・価値観が芽生え行動変容につながっていると見られます。

また活動を通して、地域や社会の役に立ちたいという未来を担う人材の育成にも寄与していることが伺えます。

こどもエコクラブの活動を通して得た経験・体験は、**将来の夢や職業に影響を与え、行動変容を促し、自己肯定感の向上やコミュニケーション能力の向上、自己実現へのモチベーションアップにつながる可能性がある**と推察されます。

こどもエコクラブ全国事務局では、アンケート結果を活かしてクラブのみなさまのお役に立つ情報やプログラムを展開していきたいと思っております。

ご回答いただきましたメンバーのみなさま、
ご協力いただきましたサポーターのみなさま、ありがとうございました。

